

# 富士河口湖町立 教育センターだより

No.19



平成27年2月27日 文責 高尾久美子

## 第5回富士山学習研究会、新たな課題に向けて



2月23日（月）、今年度最後の富士山学習研究会が行われました。この日は、富士山科学研究所から吉本光宏先生と堀内一義先生をお迎えし「火山の仕組みと防災教育」について講演していただきました。吉本先生は、今年度から富士山科学研究所の主任研究員として勤務されています。東日本大震災の釜石の奇跡、御嶽山の噴火、北海道駒ヶ岳の麓に住む小中学生向けの出前授業の例をあげながら、自然（山）をきちんと知ることが防災の役に立つというお話をされました。噴火に遭遇したらどのような行動をとったらいいのかという判断力を身につけるために学習が必要だということです。富士山

は、300年間噴火していません。いつどうなるのか誰にも分かりません。私たちは、富士山とともに生活しています。だからこそ、「火山は怖い」のではなく、「火山を正しく知る」という学習が大切です。火山灰は、風に乗ってくるので風上に逃げればいい、溶岩が流れてきたら離ればいい（そんなに溶岩の流れは速くはない）等知識を身につければ個々で逃げられます。家族が逃げていることを信じる。迎えに行っても危険等、ためになる講演でした。災害時に避難誘導ができる人材の育成がいかに大切かわかりました。

## 各学校でも富士山学習を！

2月19日（木）河口小学校5年生担任山下春美先生が、環境問題の学習で富士山を題材に授業を行いました。「富士山の環境を良くするために何が必要か！」について考え、この日は、各班が考えた計画プロジェクトの発表をしました。

『ゴミ拾い活動プロジェクト』

『富士山ゴミ0大作戦』

『トイレピカピカ大作戦』

『富士山入山料問題』

『入山規制万能薬』

『富士山をよりよくするために』

と六つの班の発表でした。各班の発表が終わる度に活発に質問や意見がでました。特にトイレは、大きな問題だなと子どもたちは感じたようです。「富士山を良くするためには、お金がかかり苦勞がたくさんあることがわかった。」と感想をもった子もいました。

私たちが富士山を守っていくのだという意識が、このような学習から育っていくのだと思います。

